

第 21 回思川開発事業生態系保全委員会 議事要旨

日 時：令和 3 年 12 月 20 日（月） 13:30～15:40

場 所：チサンホテル宇都宮 会議室「いちよう」

出席者：【委員長】三島次郎

【委 員】小笠原勝、酒井豊三郎、櫻井正美、高橋滋、宮崎淳一、柳澤紀夫
（敬称略、委員五十音順）

議 事：

（ 1 ）希少猛禽類

事務局より、オオタカ・クマタカ等のモニタリング結果、営巣中心域内での工事等に対する保全対策及び令和 4 年のモニタリング計画について説明し、了解された。なお、以下のコメントがあった。

- ・事業区域周辺でのオオタカの巣立雛数が、全つがいの調査実施年（例えば 5 年とか 10 年とか等）の平均で概ね 2 羽を下回る時は、工事による影響が出たと考えてもよい。
- ・事業区域周辺のオオタカは、ノスリに巣を乗っ取られ、当該エリアから追い出されつつある。既に撤去済みではあるが、過去にオオタカの自然巣の周辺へ過剰に設置した人工巣によって、ノスリを当該区域に留めてしまったことが一因と考えられる。

（ 2 ）ムカシヤンマ

事務局より、ムカシヤンマのモニタリング結果、令和 4 年のモニタリング計画及び幼虫の移殖試験計画について説明し、了解された。なお、以下のコメントがあった。

- ・幼虫の生息状況調査は、調査精度向上のため、産卵期の 6 月だけでなく、8 月にも行うとよい。

（ 3 ）希少植物

事務局より、希少植物のモニタリング結果、オオヒキヨモギの播種調査の結果及び令和 4 年のモニタリング計画について説明し、了解された。

（ 4 ）環境保全地

事務局より、環境保全地の動植物相のモニタリング結果及び令和 4 年のモニタリング計画について説明し、了解された。なお、以下のコメントがあった。

- ・将来的な環境保全地の位置づけを踏まえた上で、間伐の範囲や方法を検討する必要がある。
- ・環境保全地内の人工池において、ホトケドジョウの自然繁殖が確認されている。絶滅危惧種保全の観点から、環境保全地の今後の継続的維持を期待する。

以 上